

Next YOKOHAMA

## 第404回 横浜定期演奏会

2024年1月25日(土) 17:00 (16:10開場)  
横浜みなとみらいホール

指揮: 藤岡幸夫 フルート: Cocomi

武満徹: 組曲《波の盆》

モーツァルト: フルート協奏曲第2番

ルグラン: 交響組曲《シェルブールの雨傘》

© Shin Yamagishi



藤岡幸夫

© Akinori Ito



Cocomi

16:20~オーケストラガイド  
布施砂丘彦氏

S席 ¥8,500 A席 ¥7,000 B席 ¥6,000 C席 ¥5,000 P席 完売 Ys席 ¥2,000

※ Ys席: 25歳以下の方が対象のお席です。S席以外から選べます。

© Angie Kremer

お得な春季セット券! 指揮 カーチン・ウォン [首席指揮者]



### 第409回 名曲コンサート

2025年3月1日(土) 14:00 開演  
サントリーホール

ヴァイオリン: 小林美樹

伊福部昭: 管弦楽のための《日本組曲》

チャイコフスキー: ヴァイオリン協奏曲

ムソルグスキー (ラヴェル編曲):

組曲《展覧会の絵》

### 第410回 名曲コンサート

2025年5月25日(日) 14:00 開演  
サントリーホール

ヴァイオリン: 服部百音

シベリウス: ヴァイオリン協奏曲

マーラー: 交響曲第5番

好評  
発売中!

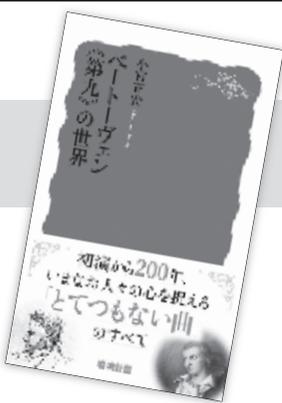
●S席セット ¥11,000 ●A席セット ¥9,000

# ベートーヴェン 《第九》の世界

小宮正安

型破りなスケールと斬新な構成で西洋音楽史を塗り替えてしまった「第九」。初演から200年、今なお人々の心を捉える「名曲」のすべて。

【岩波新書】978-4-00-432043-2 定価 1056円



岩波書店



〒101-8002 東京都千代田区一ツ橋 2-5-5  
www.iwanami.co.jp



人、音楽、自然—日本フィルのテーマです。

JAPAN  
PHILHARMONIC  
ORCHESTRA

— 創立指揮者 渡邊 暁雄 —

日本フィルハーモニー交響楽団  
JAPAN PHILHARMONIC ORCHESTRA

第403回

# 横浜定期演奏会

403rd YOKOHAMA Subscription Concert

2024年12月21日(土) 午後5時開演

横浜みなとみらいホール

5:00pm December 21st(Sat.), 2024, at Yokohama Minato Mirai Hall



主催: 公益財団法人日本フィルハーモニー交響楽団

後援: 神奈川新聞社、+vkk

協力: 横浜みなとみらいホール

助成: 文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術等総合支援事業(公演創造活動))  
独立行政法人日本芸術文化振興会



文化庁

## 下野竜也の指揮による爽快な年越し!～みなとみらいに響く歓喜の歌～

今や日本の風物詩ともいえる年末の「第九」。指揮の下野竜也は、作品や作曲家への深い理解に基づいた清新で明快なタクトで、聴衆を魅了するだけでなくオーケストラにも爽快なエフェクトをおこします。ウィーン・フィルの創立に深くかかわったオットー・ニコライによる優雅さと快活さを併せ持った《ウィンザーの陽気な女房たち》序曲とベートーヴェンの大作交響曲との対比も鮮やかです。1年を締めくくるにふさわしい、希望に満ちたコンサートをとお楽しみください。

## Programs

ニコライ:

## 歌劇《ウィンザーの陽気な女房たち》序曲 (約9分)

Otto NICOLAI: "The Merry Wives of Windsor" Overture

—— 休憩 (15分) Intermission ——

ベートーヴェン:

## 交響曲第9番《合唱》ニ短調 op.125 (約65分)

Ludwig van BEETHOVEN: Symphony No.9 "Choral" in D-minor, op.125

指揮: **下野竜也** Conductor: SHIMONO Tatsuyaソプラノ: **富平安希子** Soprano: TOMIHIRA Akikoメゾソプラノ: **小泉詠子** Mezzosoprano: KOIZUMI Eikoテノール: **糸賀修平** Tenor: ITOGA Shuhejiバリトン: **宮本益光** Baritone: MIYAMOTO Masumitsu合唱: **東京音楽大学** Chorus: Tokyo College of Musicコンサートマスター: **扇谷泰朋** [日本フィル・ソロ・コンサートマスター]

Concertmaster: OGITANI Yasutomo, JPO Solo Concertmaster

ソロ・チェロ: **門脇大樹** [日本フィル・ソロ・チェロ]

Solo Violoncello: KADOWAKI Hiroki, JPO Solo Violoncello

© 山口敦

指揮: **下野竜也**

鹿児島生まれ。2000年東京国際音楽コンクール、2001年ブザンソン国際指揮者コンクール優勝。NHK交響楽団をはじめ国内の主要オーケストラの定期演奏会に毎年のように招かれる一方、ローマ・サンタ・チェチーリア国立アカデミー管、チェコ・フィル、サンノゼ響、シンフォニア・ヴァルソヴィア、バルセロナ響をはじめとした国際舞台でも活躍している。オペラにおいても新国立劇場、二期会、日生劇場をはじめ注目の公演で指揮を務めている。2011年から広島ウインドオーケストラ音楽監督、2023年10月、NHK交響楽団正指揮者に就任。2024年4月、札幌交響楽団首席客演指揮者ならびに広島交響楽団桂冠指揮者に就任。これまでに読売日本交響楽団正指揮者、同首席客演指揮者、京都市交響楽団常任首席客演指揮者、広島交響楽団音楽総監督を歴任。東京藝術大学、東京音楽大学にて後進の指導にもあたる。齋藤秀雄メモリアル基金賞、芸術選奨文部科学大臣賞、東燃ゼネラル音楽賞奨励賞、有馬賞、広島市民賞、中国文化賞など受賞多数。鹿児島市ふるさと大使。NHK大河ドラマテーマ曲収録(これまでに6作品)、NHKFM「吹奏楽のひびき」パーソナリティを務めるなど、放送においても活躍している。

公式ホームページ [http:// www.tatsuyashimono.com/](http://www.tatsuyashimono.com/)

← YouTube チャンネル

【2分でわかる大人のためのオーケストラ入門 Plus+】  
X、Instagramでは2分バージョン配信!

この演奏会では、目の不自由なお客様のために点字プログラムをご用意しております。ご希望の方は主催受付までお申し出ください。

## ●お客様へのお願い●

演奏中はお手持ちの時計のアラーム、または携帯電話などの電源はお切りください。手荷物、傘、チラシ類などの物音、話し声や体の動きなどで他のお客様のご迷惑にならないようご配慮をお願い申し上げます。尚、録音、録画、演奏中の写真撮影は固くお断りしております。



### ソプラノ: 冨平安希子

東京藝術大学卒業、同大学院修了。明治安田生命クオリティ・オペライフの助成により渡独し、シュトゥットガルト音楽大学を最優秀で修了。2005年リヒャルト・ワーグナー協会奨学生。ヴィルトバート・インターナショナル・ベルカントコンクール第二位、聴衆賞受賞。バイエルン州立歌劇場オペラ研修所にて研鑽を積み、同劇場《ばらの騎士》《魔笛》《ヘンゼルとグレーテル》等出演。また、ドイツ各地で《フィガロの結婚》スザンナ、《メリー・ウィドー》ヴァランシエンヌにも出演。国内でも、二期会《後宮からの逃走》ブロンデ、《魔弾の射手》エンヒェン、《椿姫》ヴィオレッタ、日生劇場《ラ・ボエーム》ムゼッタ等数多く出演。二期会《ルル》タイトルロール、《影のない女》皇后等の難役においても、確かな音楽性と卓越した演技力で好評を博す。また、宗教曲等のオーケストラ・コンサートやドイツリート等歌曲の分野においても活躍の場を広げている。二期会会員。



### メゾソプラノ: 小泉詠子

東京藝術大学大学院博士課程修了、博士号取得。二期会オペラ研修所修了後、文化庁在外研修員として渡伊。二期会《ファウストの劫罰》マルグリート、《ノルマ》アダルジーザ、日生劇場およびサイトウ・キネン・フェスティバル松本《ヘンゼルとグレーテル》ヘンゼル、新国立劇場《イエヌーフア》バレナ、《魔笛》侍女II、《スーパーエンジェル》ルイジ、《ボリス・ゴドゥノフ》フョードル、グラントオペラ共同制作《カルメン》メルセデス等に出演。24年は二期会《蝶々夫人》スズキ、《コジ・ファン・トゥッテ》ドラベッラに続けて出演、好評を博した。コンサートでも、ヘンデル「メサイア」、ブルックナー「ミサ曲へ短調」「テ・デウム」や、J. ノット指揮モーツァルト「レクイエム」等の他、プラハ国立歌劇場管弦楽団、コソボ交響楽団ともモーツァルト「レクイエム」のソリストとして共演。第15回岩城宏之音楽賞受賞。東京藝術大学非常勤講師。二期会会員。



### テノール: 糸賀修平

武蔵野音楽大学卒業。同大学院および新国立劇場オペラ研修所修了。文化庁在外研修員として渡伊、その後ロームミュージックファンデーション音楽在外研究生として渡独。第1回エンツォ・ソルデッロ国際コンクールで入賞し、《セビリアの理髪師》アルマヴィーヴァ伯爵役を獲得。イタリア・クーネオでも同役を演じた。新国立劇場での活躍も目覚ましく《ファルスタッフ》《トスカ》《カルメン》等の他、《ピーター・グライムズ》では急遽ボブ・ボウルズにて出演、好評を博す。ロームシアター京都柿落し公演《フィデリオ》ヤッキーノ、二期会《こうもり》アルフレード、C. ミョンフン指揮《蝶々夫人》ゴロー、オペラ夏の祭典《トゥーランドット》ボン、OMF《フィガロの結婚》クルツィオ等多数出演。24年二期会《コジ・ファン・トゥッテ》フェランドでも高い評価を得た。地域創造公共ホール音楽活性化事業（おんかつ）登録アーティスト。東京藝術大学非常勤講師。二期会会員。



### バリトン: 宮本益光

東京藝術大学卒業、同大学院博士課程修了。学術（音楽）博士号取得。03年A. プレヴィン《欲望という名の電車》スタンリーで一躍注目を集め、以降、二期会《ドン・ジョヴァンニ》タイトルロール、《コジ・ファン・トゥッテ》グリエルモ、《メリー・ウィドー》ダニロ、新国立劇場《鹿鳴館》清原栄之輔、日生劇場《オルフェオとエウリディーチェ》オルフェオ、《メデア》イヤソン、神奈川県民ホール《魔笛》パパゲーノ等数多く出演。神奈川県民ホールおよび二期会《金閣寺》では溝口にて主演、高い評価を得た。古典から現代、邦人作品までレパートリーは幅広く、全国各地のオーケストラと共演。23年バルトーク作曲《青ひげ公の城》では鮮烈な演唱で話題を呼んだ。演奏のみならず、作詞、訳詞、執筆、演出等でも多彩な才能を発揮、創造性あふれるステージで聴衆を魅了している。MOZART SINGERS JAPAN 主宰。桐朋学園大学教授、聖徳大学客員准教授、東京藝術大学非常勤講師。二期会会員。



### 合唱: 東京音楽大学

東京音楽大学合唱団は「合唱」授業科目の履修者から選抜された学部生と声楽専攻の大学院生を中心に構成する混声合唱団で、国内外の著名オーケストラと数多くの共演を果たしている。日本フィルハーモニー交響楽団との共演は、「第九」を始めとして1979年以来40年以上の歴史を持つ。2021年6月に「めぐろで第九 2020+1」、2022年8月に「フェスタサマーミュージック KAWASAKI 2022」に出演。2023年には日本フィルハーモニー交響楽団「クレルヴォ交響曲」「第九」《道化師》「カルミナ・ブラーナ」、2024年には「地中海のテーマ」に出演。合唱指導は2024年度より、志村文彦、杉野正隆、藤牧正充、浅井隆仁の各氏に加え、フレンドリー・アドバイザーとして広上淳一氏を迎えている。



### 今日のコンサートの聴きどころは？

ヨーロッパ文化史研究家小宮正安さんの面白解説をお楽しみください！

16時20分より  
大ホール内にて♪



小宮正安（こみや まさやす）●ヨーロッパ文化史・ドイツ文学研究家。横浜国立大学（大学院都市イノベーション学府・都市科学部）教授。著書に『ベートーヴェン〈第九〉の世界』（岩波新書）、『ばらの騎士』（音楽之友社）、『エリザベトと黄昏のハプスブルク帝国』（創元社）、『コンスタンツェ・モーツァルト（悪妻）伝説の虚実』（講談社選書メチエ）、『音楽史 影の仕掛人』『オーケストラの文明史 ヨーロッパ3000年の夢』（春秋社）、『モーツァルトを「造った」男ケッヘルと同時代のウィーン』（講談社現代新書）、『愉悦の蒐集 ヴンダーカンマーの謎』（集英社新書）など多数。NHK『ウィーンフィル・ニューイヤーコンサート』でのコメンテーターをはじめテレビやラジオへの出演や監修、『東京・春・音楽祭』でのナビゲーターなど、幅広い分野で活躍している。

## ニコライ：歌劇《ウィンザーの陽気な女房たち》序曲

オットー・ニコライ (1810-49) は、作曲活動と並び、指揮者としての活動も活発に展開していた。

特に注目すべきは 1842 年、ウィーン宮廷歌劇場で働く管弦楽団のメンバーから成る「ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団」が活動を始めるにあたり、その牽引役を務めた点。ベートーヴェンの交響曲を理想的に演奏することに心血を注ぎ、当時上演至難な作品と見なされていた「第九」についても、同楽団と上演を果たしている。

そんなニコライだが、やがてウィーンを去り、ベルリン王立歌劇場の楽長に着任する。そうした状況の中で、既にウィーンにいた頃から書き始めていた《ウィンザーの陽気な女房たち》を完成させ、1849 年に初演。ウィリアム・シェイクスピア (1564-1616) による同名の傑作戯曲 (好色な初老の騎士を、女性たちが中心になってぎゃふんといわせる喜劇) を基にしたこの作品は、大成功を収める。

本日演奏される「序曲」は、ファルスタッフに対して人々が仕返しをする場面で演奏される旋律が中心。月夜の森の風景を描いた序奏部分に続き、様々ないたずらが炸裂する様子を描いた活発な主部が続く。

**楽器編成** フルート 2 (ピッコロ持替 1)、オーボエ 2、クラリネット 2、ファゴット 2、ホルン 4、トランペット 2、トロンボーン 2、バス・トロンボーン 1、ティンパニ、大太鼓、シンバル、弦楽 5 部。

## ベートーヴェン：交響曲第 9 番《合唱》ニ短調 op.125

ドイツを代表する詩人の 1 人フリードリヒ・フォン・シラー (1759-1805)。彼が、「自由・平等・友愛」の理念をテーマにした詩「歓喜に寄す」を書いたのは、1785 年のことだった。しかも 4 年後の 1789 年には、その理念とも通底するフランス革命が勃発し、当時 20 歳を目前に控えていた若き日のルートヴィヒ・ファン・ベートーヴェン (1770-1827) が、「歓喜に寄す」に基づいた作品を作りたい、という構想を抱く 1 つのきっかけともなっていく。

それから 30 年近い年月を経た 1817 年、ベートーヴェンはロンドンのフィルハーモニック協会から、新作交響曲の依頼を受け、その実現に向け構想を温め始めた。その後、中断を経ながら、1822 年頃に交響曲の創作に本格的に着手。翌 23 年には第 1 楽章から第 3 楽章までの主要な楽想を整え、1824 年の初頭に全曲を完成させた。なお、シラーの「歓喜に寄す」を交響曲の終楽章に加えることがベートーヴェンの中で正式に固まったのは、全曲完成のほぼ半年前だった。ここに、『交響曲第 9 番』(通称「第九」) が誕生した。

なお「第九」は、「合唱付交響曲」という、当時としては非常に珍しい形の交響曲だった。「交響曲」は元々、器楽の「響き交わし (Sym-phonía)」という意味合いから生まれた言葉だが、この「第九」をもって交響曲は、声楽をも含んだ器楽作品としての新たな可能性を得ることとなる (ただし「合唱付き」「合唱」という呼び名は、ベートーヴェン自身ではなく、後世の人々がつけたものである)。

初演は今からちょうど 200 年前の、1824 年 5 月 7 日に、ベートーヴェンの指揮の下でおこなわれた。演奏者や聴衆を問わず初演の会場にいた人々の様々な証言によれば、この時のベートーヴェンは、巷間伝えられているように聴覚を完全に失っていたというわけではない。

ただし、声楽が加わるという異例のスタイルをはじめ、この交響曲は前代未聞のスケールを具えていた。そうした事情から、コンサートマスターの大活躍や補助の指揮者が必要とされ、実質的にはベートーヴェンを含め全体として 3 人の指揮者が並び立つこととなった。さらに、独唱者については男声は直前に交代、オーケストラや合唱は宮廷劇場に勤務する職業音楽家と音楽愛好家の臨時混合編成、全員が揃ってのリハーサルは 3 回と様々な制約が存在したものの、初演は熱狂的な反応を引き起こした。

第 1 楽章：アレグロ・マ・ノン・トロppo、ウン・ポーコ・マエストロ、ニ短調

序奏は、宇宙のビッグバンを彷彿させる、不安定であると同時に神秘的な弦楽器のトレモロから始まる。それに続き、分散和音の音型で激しく下降する第 1 主題、「喜びの歌」を先取りしたかのような第 2 主題が登場。この 2 つの主題が様々な切り結びながら楽章全体がソナタ形式に基づいて展開を遂げていった後、最後には英雄の死を思わせる葬送行進曲風の楽想が現れる。

第 2 楽章：モルト・ヴィヴァーチェ、ニ短調

ベートーヴェンが得意としたスケルツォ楽章 (スケルツォとは「冗談」という意味)。ただしこの楽章では、時には激しく、時には不気味なティンパニの響きが、ブラックジョークのように散りばめられている。中間にトリオ部を持つ伝統的な三部形式を基本に、両端のスケルツォ主部それぞれ自体がソナタ形式 (主題の呈示～展開～再現) という入れ子構造になっている凝り方も、一種の「冗談」に他ならない。

第 3 楽章：アダージョ・モルト・エ・カンタービレ、変ロ長調

2 つの激しい楽章が続いた後、はじめて天国的な安息感が溢れる長大な楽章だ。しかもこの楽章でも、瞑想的な変ロ長調の第 1 主題と、少し動きのあるニ長調の第 2 主題を基にした、ソナタ形式が用いられている。楽章の最後には、天が開けたかのような輝かしいファンファーレが奏でられるものの、やがてすべては静まってゆく。

第 4 楽章：プレスト、ニ短調 - ニ長調

長大な序奏の部分はオーケストラのみにより、不協和音の爆発、低弦が奏でる朗唱風の重々しいメロディにより始まる。しかもこのメロディによって前の 3 つの楽章の主題がすべて否定された末、「喜びの歌」のメロディが姿を現す。

さらに、件の朗唱風のメロディに乗せてバリトン独唱が歌い始め、これまで展開されてきた「器楽のみ」による交響曲のあり方をも否定。声楽と器楽の新たな響きが作られてゆく。死せる英雄が死後赴く楽園 (エリジウム) からやってきた「歓喜」が、失われた自由や友愛をもたらすという「歓喜に寄す」のメッセージを、音楽によって昇華させた壮大なフィナーレに他ならない。

**楽器編成** 独唱ソプラノ、独唱アルト、独唱テノール、独唱バス、混声合唱 (ソプラノ、アルト、テノール、バス)、ピッコロ 1、フルート 2、オーボエ 2、クラリネット 2、ファゴット 2、コントラ・ファゴット 1、ホルン 4、トランペット 2、トロンボーン 2、バス・トロンボーン 1、ティンパニ、大太鼓、シンバル、トライアングル、弦楽 5 部。

Ode "An die Freude" von Friedrich Schiller  
フリードリヒ・シラー 頌歌 "歓喜に寄す" より

訳：小宮正安

O Freunde, nicht diese Töne!  
Sondern laßt uns angenehmere  
anstimmen und freudenvollere!

Freude, Schöner Götterfunken,  
Tochter aus Elysium,  
Wir betreten feuertrunken,  
Himmlische, dein Heiligtum.  
Deine Zauber binden wieder,  
Was die Mode streng getheilt;  
Alle Menschen werden Brüder,  
Wo dein sanfter Flügel weilt.

Wem der große Wurf gelungen,  
Eines Freundes Freund zu sein,  
Wer ein holdes Weib errungen,  
Mische seinen Jubel ein!  
Ja, wer auch nur eine Seele  
Sein nennt auf dem Erdenrund!  
Und wer's nie gekonnt, der stehle  
Weinend sich aus diesem Bund!

Freude trinken alle Wesen  
An den Brüsten der Natur;  
Alle Guten, alle Bösen  
Folgen ihrer Rosenspur.  
Küsse gab sie uns und Reben,  
Einen Freund, geprüft im Tod;  
Wollust ward dem Wurm gegeben,  
Und der Cherub steht vor Gott.

Froh, wie seine Sonnen fliegen  
Durch des Himmels prächt'gen Plan,  
Laufet, Brüder, eure Bahn,  
Freudig wie ein Held zum siegen.

Seid umschlungen Millionen!  
Diesen Kuß der ganzen Welt!  
Brüder - überm Sternenzelt  
Muß ein lieber Vater wohnen.  
Ihr stürzt nieder, Millionen?  
Ahnest du den Schöpfer, Welt?  
Such' ihn überm Sternenzelt!  
Über Sternen muß er wohnen.

(以上、フリードリヒ・シラーの『歓喜に寄す』をベートーヴェンが自由に編纂)

おお友よ、このような音ではだめだ！  
そうではなくより心地良い音に  
さあ声を合わせようより喜びに満ちた音に！  
(以上ルートヴィヒ・ファン・ベートーヴェン作詞)

喜びよ、神々の美しい閃光よ  
エリジウムの娘よ  
私たちは足を踏み入れる 炎に酔いしれつつ  
素晴らしいお前の聖所へと。  
お前の魔法は再び結びつける  
厳格に分断されていた世の趨勢を。  
あらゆる人々は兄弟となるがよい  
お前の柔らかな翼が憩うところで。

大きな幸いを得た者  
即ち友を友とできた者  
優しい妻を得た者は  
その喜びを共にしよう！  
そうだ、たとえたったひとつの魂であっても  
自分のものと呼べるものを世界で持つ者は！  
そしてそれができない者は、そっと立ち去るがよい  
涙しながらこの集まりの外へ！

あらゆる存在は喜びを飲む、  
自然の乳房から。  
いかなる善者も、いかなる悪漢も  
バラの道をゆく。  
喜びは私たちに接吻と葡萄酒とを与えてくれた  
そして死の試練をのりこえた友も。  
快樂などはウジ虫に与えてしまえ  
そうすればケルビムが見えてくる神の御前に。

朗らかに 創造主の恒星が飛翔するように  
天の輝かしい運行の中を  
進め、兄弟よ、君たちの行く道を  
喜びに満ちて、勝利へ向かう英雄のように。

抱かれよ数多の者たちよ！  
この接吻を全ての世界に！  
兄弟たちよ星の輝く天幕の彼方には  
慈愛に満ちた父がいるに違いない。  
ひざまずくか、数多の者たちよ？  
創造主を感じるか、世の者たちよ？  
その方を星の輝く天幕の彼方に探せ！  
星の彼方にその方はいるに違いない。



Column

歴史でひもとく! ~クラシックこぼれ話 by 小宮正安



幻のケルトナー門劇場と「第九」の初演

「第九」、つまりベートーヴェン作曲『交響曲第9番』の初演がおこなわれたのは、ケルトナー門劇場。中央ヨーロッパに大帝國を築いたハプスブルク家が、帝都ウィーンに構えていた2つの宮廷劇場の1つである。元々は18世紀初頭に建てられ、火災による再建を経たのち、19世紀に入るとオペラを中心にした演目が上演されるようになった。

本日の演奏会の幕開けを飾るニコライも、ウィーンで活躍していた時代は、この劇場で、楽長として、もっぱらオペラの指揮をおこなっていた。つまりケルトナー門劇場は、現在のウィーン国立歌劇場の元祖ともいえる存在だったのである。

なお、ニコライのいわば先輩にあたるベートーヴェンの生きていた時代、つまり19世紀初頭のウィーンには、演奏会専用のコンサートホールは存在していなかった。また現在のように、人々がチケットを購入し、自分たちの聴きたい音楽を聴きにゆくという「公開演奏会」も、ウィーンではようやく始まったばかりという状態だった。

というわけで、演奏会が行われる場合は、公演がない日の劇場がしばしば用いられた。しかも音楽家が、自らの新作を自身の指揮や演奏で聴かせ、会場や出演者の手配もすべておこない、チケットの販売も自ら手掛けるという、いわば手弁当のワンマンショー的な演奏会のスタイルが圧倒的だった。「第九」の初演も、そのようにしておこなわれたのである。

現在、ケルトナー門劇場は存在しない。19世紀半ば以降におこなわれた、ウィーンを近代都市に生まれ変わらせるための大工事の中で取り壊され、そこから一区画外側に、ウィーン国立歌劇場(当時は「ウィーン宮廷歌劇場」という名称だった)がお目見えした。

なおケルトナー門劇場の跡地に建てられたのは、ウィーンを代表する名物ケーキの「ザッハー・トルテ」で有名な高級ホテルの「ホテル・ザッハー」。その中には、「この場所で『第九』が初演された」というプレートがひっそりと掲げられている。その「第九」が初演されてから、今年で200年目の年になる。



ケルトナー門劇場 1815年

■退団のお知らせ

ファゴットの大内秀介(2018年3月入団)は2024年11月30日付で退団いたしました。今後のご活躍をお祈り申し上げます。

■NHK-FM「ブラボー!オーケストラ」放送予定

2024年11月24日第408回名曲コンサートの模様がラジオで放送されます。

指揮:ピエタリ・インキネン ヴァイオリン:神尾真由子
2025年1月12日(日) 19:25~20:25 グラズノフ:ヴァイオリン協奏曲 他
2025年1月19日(日) 19:25~20:25 R. シュトラウス:アルプス交響曲

■テレビ番組レギュラー出演のお知らせ

日本フィルがBSに。指揮者が語るミニ番組!『Welcome クラシック』BS朝日 毎週水曜日 22:54~23:00(第3週、第4週は再放送)。ぜひご覧ください!

■朝日カルチャーセンター新宿教室 講座開催

広上淳一が語る「仮面舞踏会」 日本フィル「オペラの旅」に寄せて

講師 広上淳一(指揮者) 加藤浩子(音楽評論家)
日時 2025年3月26日(水) 19:00~20:30
朝日カルチャーセンター会員:3,718円(税込) 一般:4,818円(税込)
問合せ先 朝日カルチャーセンター新宿教室 TEL:03-3341-1941

■本日の公演は終演時のカーテンコールでの写真撮影が可能です。

携帯電話・スマートフォン付属のカメラで着席のまま撮影をお願いいたします。フラッシュ、動画撮影はお控えください。詳しくは会場の掲示をご覧ください。

◆定期会員券ご寄付のお願い◆ お客様のご都合により、定期演奏会にご来場いただけなくなった時は、是非日本フィルにチケットをご寄付ください。有効に活用させていただきます。

【ご寄付の方法】

ご寄付いただける会員券の公演日・座席数・座席番号を日本フィル・サービスセンターにお電話かFAX、メールにてご連絡の上、会員券をご郵送ください。主催会場でも受け付けます。
●公演1週間前のご寄付に関しては、会員券のご郵送は不要です。●会員券のご郵送料はお客様にてご負担いただけます様ご協力をお願いいたします。
●ご寄付いただいた定期会員のお客様には、ご寄付いただきました公演月のプログラム冊子を後日ご郵送いたします。また、翌月または翌々月のプログラムにご芳名を掲載させていただきますので、掲載をご希望されないお客様はご連絡をお願いいたします。

日本フィル・サービスセンター
〒166-0011 東京都杉並区梅里1-6-1
TEL: 03-5378-5911(平日10時~17時)
FAX: 03-5378-6161(24時間)
e-mail: order-ticket@japanphil.or.jp

横浜定期演奏会の定期会員券をお譲りいただきました。11月の寄付者 匿名5名 敬称略・五十音順

横浜定期会員の特典

横浜ベイホテル東急(横浜みなとみらいホール向かい)にて、メンバーズ優待を行っております。

飲食:下記店舗で、飲食料金が10%OFFとなります。(4名様まで)※除外日および対象外メニューあり

オールデイダイニング「カフェ トスカ」/ラウンジ「ソマーハウス」/日本料理「大志満」
中国料理「スーツァンレストラン陳」

※会計時に横浜定期会員券をご提示ください。※この割引は日本フィルのコンサート開催日以外にも有効です。
※指定以外の店舗、および宴会は対象外ですのでご了承ください。※他の特典・割引との併用はいたしかねます。

公益財団法人 日本フィルハーモニー交響楽団 (1956年6月創立)

- 創立指揮者/渡邊暁雄
●桂冠名誉指揮者/小林研一郎
●名誉指揮者/ルカーチ・エルヴィン
●名誉指揮者/ジェームズ・ロッドラン
●客員首席指揮者/ネーメ・ヤルヴィ
●首席指揮者/カーチュン・ウォン
●桂冠指揮者兼芸術顧問/アレクサンドル・ラザレフ
●フレンド・オブ・JPO(芸術顧問)/広上淳一

公式X(元Twitter) @Japanphil

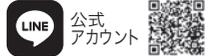


Table with columns for various roles: ソロ・コンサートマスター, ソロ・チェロ, ソロ・トランペット, 理事, 名誉顧問, 団友. Lists names and titles for each category.

(2024年12月1日現在)